

奥能登探查

藤田 享士

昭和35年7月30日より10日間、舩倉島を含む奥能登を我が関西大系検部
部員4名、一年商学部洞上、二年法学部池田、三年法学部藤田宏三、工学部藤田享
士によつて探查した。その目的はオーに舩倉島調査、オニ奥能登を踏査すること
によつて新部員の合宿、トレーニング等によつて養はれた体力、チームワーク
行動を実地に役立たせ、来る3月の離島調査、洞窟探查に備える爲であつた。能
登班の行動表を次に記す。

7月30日(土) 大阪駅発

7月31日(日) 能登島着

8月1日(月) 能登島発、榑剛岬着

8月2日(火) 榑剛岬発、曾々木着

8月3日(水) 曾々木

8月4日(木) 曾々木発、舩倉島着

8月5日(金) 舩倉島

8月6日(土) 舩倉島

8月7日(日) 舩倉島発、輪島着

8月8日(月) 輪島発、福浦着

8月9日(火) 福浦発

8月10日(水) 大阪着

調査担当

藤田宏三 教育、風俗、

池田一也 装備、会計、

藤田享士 写真、生物、

洞上尚祐 食糧、装備、

7月31日 晴、能登島

七尾湾を南北に分っている能登島、それは周囲70Kに及び、現在は七尾市
から島の中心佐茂迄の約10キロの向を20トン級の小さな船が定期的に通つて
いる。この能登島が早くから開けたことは佐茂の東方で発見された須磨古墳によ
つて知ることが出来る。この古墳には2米隔つて二つの石室がおかれてあり、そ
の西方を雌穴、東側の方を雄穴と呼ばれている。かつて が穴居生活を行つた
後ではないかと云われている。島の内には今もつて昔の風習である火祭が我々の
着いた夜、即ち7月31日夜10時より大たいまつに村人達によつて火が投げさ
まれ夜空を炎えさかる松明が赤々と照らし出す。これはその年の米作の豊作の祈
りともゆわれ松明の炎の方角によつて運を語つていた。又昔から馬の産地として
も名高く「宇右川の先陣争い」で知られる名馬「朧月」はこの島で生まれたと云

われている。今はむしろ馬よりも牛の方が多く島内の到る所において放牧されている姿を見ることが出来た。

7月1日 晴 内浦にそって

七尾湾にそって延びる内浦は日本海に面した外浦に比較して海が穏やかで女性的な明るい海岸風景を見せていた。そこには幾つもの美しい入江、あでやかな松林の台地の下は白っぽい凝灰岩の先端が時々美しく目に映る。この向は国鉄バスは穴水から飯田へ、さらに能登最先端篠剛岬へと通じている。陸山湾の向うには美しい立山連峰がバスの窓からも見る事が出来る。宇出津、穴水、それから支路から三崎へかけての旅を描く飯田湾岸の穏やかな砂浜、そこに住む人々の生活はきびしいが美しい自然の内に溶けこんで明るい内浦の風土をかもし出している。能登半島の北東の先端部に位置する珠洲市、それは昭和29年に市制がひかれた人口3万8千余りこの様に半島で3万人をこえる人口の持つ市は日本では大変珍しい。市の中心飯田へは県都の金沢から6時間もかかり昔から文化に見放されている。又一方半島独自の文化も発展したことはかくすことの出来ない事実である。日本海につき出た半島の最先端それは篠剛岬である。常に日本海の荒波をその剣の様な先で波を切り白い波を立てていた。

篠剛岬には源氏義経が愛用したと伝えられている平家の宝「蟬祈の笛」の須々神社が広葉樹の暖帯林に囲まれて、千古の昔を我々にひしひしと感じさせる。半島の北端狼煙から台地を十分向程登ると瑛白の燈台が目前に迫る。この燈台は高さ60メートルの海岸段丘にあつて、1883年に建てられ、万の千燭光の白色光で日本海に毎夜光を送っている。灯台の前に立つ時、はるか前方左の方に七ツ島が小さく豆粒の様に見えていた。

8月2日 晴 曾々木の海岸

篠剛岬から直浦に至る10キロ余りの海岸線は日本海からの荒波を受け、石英粗面岩をえくり取つて巨大な絶壁や奇岩、ほら穴をつくり出している。その男性的な海崖の風景は内浦と異なつた美しさをまざまざと我々に見せてくれた。ここは天然記念物に指定されている。曾々木より南へ少し行くと下時国家が我々の目をひきつける。源平の戦に敗れた平時国が流されてこの奥能登に居を定め住んだ住居である。又南よりに本家と云われる上時国家が一段と高い石積の上に立つている上時家は江戸時代の建立と聞いた。

8月8日 晴 輪島と漆器

七尾線の終点、それは舳倉島への入口輪島である。外浦に面したこの漆器の町

輪島は人口約4万余り、大部分は漆器の製造、それに漁業に頼っている。輪島港の近くには海士（あま）町があつてこの町内に住む大部分の人々が夏には七ツ島や舩倉島へ行くのである。そして今までは冬でもある一部の人々は年中舩倉島で生活しているのである。

8月9日 晴 福浦から剣地へ

外箱の荒波が道路の下を白い波を立てて流す。その中に怒のはい農家が目についた。これは此の地方に多い強い西風によつて砂浜の砂が室内に入りこむのを防ぐ爲にその様にしてあるのだ大変めずらしい。又、「なる浜」と云われる砂浜は砂の粒がそろつてゐるためにあるくと「キエウ」という音をたてるためにつけられた名前である。日本にも珍らしく他に三ヶ所しか見られないものである。

（裝備）

露宿用具、

テント、スコップ、ラジオス、コツフェル、水筒、
ミラフ、懐中電灯、ナイロンバケツ。

（費用）

交通費	12,000.-円
食糧費	6,000.-円
通信費	2,000.-円
雑費	2,000.-円
予備費	4,000.-円
フィルム	1,500.-円
計	<u>33,500.-円</u>